

平成 27 年度 羽咋市環境審議会

- 1 開催日時 平成 28 年 2 月 22 日 (月) 午前 10 時 ~ 午前 11 時
- 2 開催場所 羽咋市役所 302 会議室
- 3 出席者 委員 9 名 (2 名欠席) 事務局 4 名
- 4 議題 「羽咋市地球温暖化対策実行計画 区域施策編 (案)」について (諮問)
- 5 主な質疑や意見 (要約)

【委員】: 温室効果ガス排出量 (資料 P22) の民生業務部門の排出量が平成 2 年 (基準年度) から倍に増加しているが、商工会の事業所数は半分に減っている。算出基準は。

【事務局】: 環境省のデータであり、算出には、国の統計データを使っている。

【委員】: 温室効果ガス排出量の民生部門の平成 23、24 年の数値の増加は、原発の問題が関係しているのか。

【事務局】: CO₂ 排出量は、電気使用量 × CO₂ 排出係数の計算式で算出している。原発が停止した影響で CO₂ 排出係数が悪化したことは、増加原因の一つである。

【委員】: 温室効果ガス排出量は羽咋市のデータか。原発の影響は関係するのか。

【事務局】: 羽咋市のデータである。計算式の過程で、CO₂ 排出係数を使わざる負えないため、原発の影響を受けている。

【委員】: 市独自で CO₂ 排出量の集計はできないのか。

【事務局】: 市独自では難しい。県を通して算出に必要なデータを国に送り、国が共通したやり方で CO₂ 排出量を算出している。

【委員】: ごみの排出量は減っている気がするが、羽咋市はあまり減っていないのではないかと。

【事務局】: 可燃ごみを有料化したときに、1 割ほど減り、現在は広報等で呼びかけてはいるが、横ばいである。

- 【委員】： シール制から指定ごみ袋制に変わるときは、各家庭で、生ごみの水切りやコンポストを使うなど、ごみ減量に積極的に取り組んできたが、現在、意識が段々薄れてきている。再度、環境教育に力を入れてほしい。
- 【委員】： 世帯数が増えれば、ごみが増えることは踏まえてほしい。マイバックは徹底されているが、市の要請で、市全体でスーパーなどの小袋を使わないといった対策が必要ではないか。
- 【委員】： 植物由来の成分でできたごみ袋を市指定ごみ袋に使用してはどうか。また、こういったごみ袋を普及促進してはどうか。
- 【委員】： 加賀市の生ごみ分別収集を視察してきたが、羽咋市と違うところは、加賀市には、生ごみを堆肥にする業者がいることである。段ボールコンポストは、手間がかかる。生ごみ減量対策はやらなければいけないことだが、ほとんど CO2 排出量の廃棄部門に影響していないため、もう少し効率よく CO2 排出量を削減する方法があればよい。
- 【委員】： エコ保育園の認定とあるが、具体的にどのようなことを教えるのか。また、子どもたちが実際に体験をするのか。認定されたら補助金はあるのか。 実際、その活動は、家に帰ってから、子どもたちから親に伝わっているのか。
- 【事務局】： ごみの分別や段ボールコンポスト等に取り組んでおり、子どもたちが、実際、段ボールコンポストを体験している保育園もある。エコ保育園は、現在補助金はない。
- 【委員】： 保育園で、段ボールコンポストの出前講座をしたことがあるが、開催案内をみて、参加する親もいる。また、段ボールコンポストを家に持ち帰ったときに、子どもが親に生ごみをコンポストに入れたかどうかと確認する姿もあると聞いている。
- 【委員】： がんばる羽咋創生総合戦略に記載の二酸化炭素削減量の数値との整合性は。公共施設での削減量はどれくらいなのか。
- 【事務局】： これは、市の施設での削減量である。平成 24 年度を基準年度とし、平成 29 年度までに 6%を削減するといった目標で取り組んでいる。

【委員】： 行政でこれくらい削減できるといった具体的な数値があれば、住民に説得しやすいのではないか。

【事務局】： 具体的な数値は計画に盛り込みたい。

【委員】： ユーフォリア千里浜で目に見えるように、CO2削減量を掲示すればよいのでは。意識の改革が必要である。

【会長】： 皆様方の意見を取り入れた上で、計画(案)に了承ということによろしいでしょうか。

【委員全員】： はい。